

文節で区切って音読できるように

こんな児童です（小学校2年生）

- ・ 文を正しく読むことが苦手である。
- ・ 音読は、文節に区切って読むことができず一文字一文字を読んでしまう。

???



担任の願い

- ・ 「サ行」の発音が正しくできる。
- ・ 拗音、促音を正しく読むことができる。
- ・ 文節で区切って読むことができる。

通級による指導での実践

◎ 言葉をまとまりとしてとらえる練習をする

【単語のフラッシュカードを読む】

- ・ カードに単語を書き、1枚1秒程度の速さで提示する。
- ・ 提示の順はランダムに変えていく。
- ・ サ行、拗音、促音の入る言葉、仲間になる言葉のカードなどを使う。

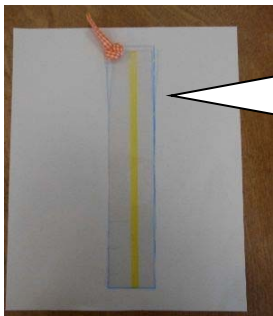


【ことばさがしのゲームをする（くだもの名前を見つけて○でかこもう）】

みやばななつとはぱいなつふるあももせよあいちじくおらかきいれ
きみかんとかぶどうひのなしまねめみもめろんかなちもりんごむど

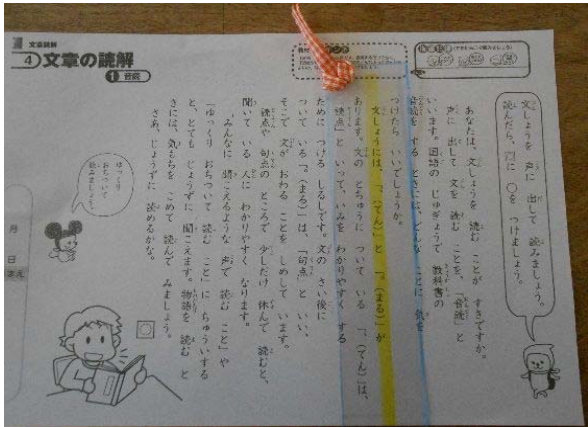
◎ 読む行を分かりやすくして、一人で読む練習をする

- ・ 読むところにシートを当てながら読む。



透明シートの
中央部分を
黄色に塗る

※紙を切り抜く方法もある。



◎ 言葉をまとまりとしてとらえて音読をする

【実践例】

一日のおわりには、きょう あったできごとや、
 どうぶつを見て 気がついたことを、日記に書きます。
 きろくをしておく、つぎに 同じような びょうきや
 けがが あったとき、よりよいちりょうを することが
 できるのです。さいごに、おふろに入ります。どうぶつ
 の体には、人間の びょうきのもとに なるものが
 ついて いることが あります。だから、どうぶつに
 さわったあとは、それを どうぶつ園の外に もち出さ
 ないために、おふろで 体をあらわなければいけない
 のです。
 これで、ようやく ながい一日が おわります。

光村図書 二年「どうぶつ園のじゅうい」より

★★通級による指導との連携★★

- ・ 通級指導教室で使う補助具を共有する。

取組の工夫

- ・ 文節ごとに線を入れて文を区切る。
- ・ 教科書より行間を空けたプリントを使う。
- ・ 教科書に線を引いたり困ったりするとき、
実物投影機を使い、視覚的にとらえられるようにする。

成果

- ・ 途切れ途切れに音読をすることが少なくなっている。
- ・ 音読するときに行の移動がスムーズになっている。
- ・ 文章の中から、どの言葉が大切なのかをとらえることができるようになってきている。



自分で板書を写したり音読をしたりできるように

こんな児童です (小学校2年生)

- ・ 視覚認知能力が低く、黒板のどこを写すのか、教科書のどこを読んでいるのかが分からないことが多い。
- ・ 個別の指示がないと、やるべきことを理解することが難しい。
- ・ 課題を理解した文や絵をかくことが難しい。



担任の願い

- ・ 正確に板書をする事ができる。
- ・ 正確に文字を追いつき、音読することができる。

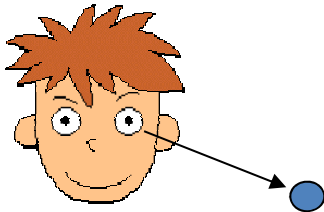


通級による指導での実践

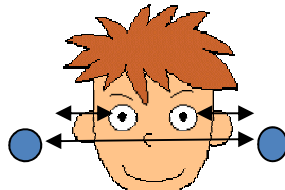
◎ 視覚認知能力を高めていく

【眼球運動】

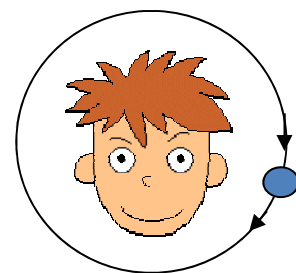
【じっと見つめる】



【すばやい動き】

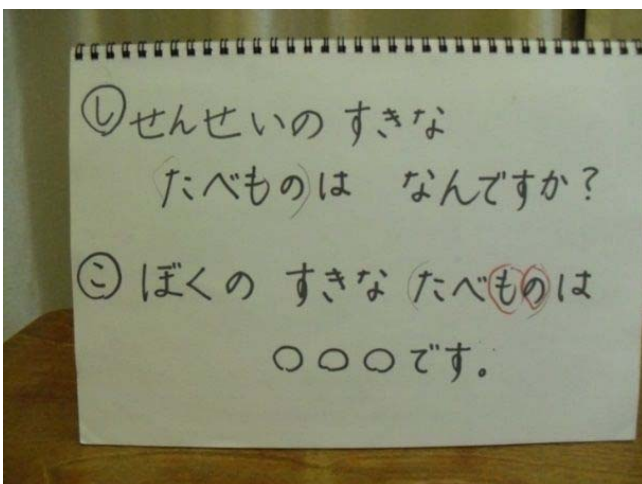


【円を描く動き】



◎ 質問を読んだりカードを見たりして会話を続ける

【問答ゲーム】



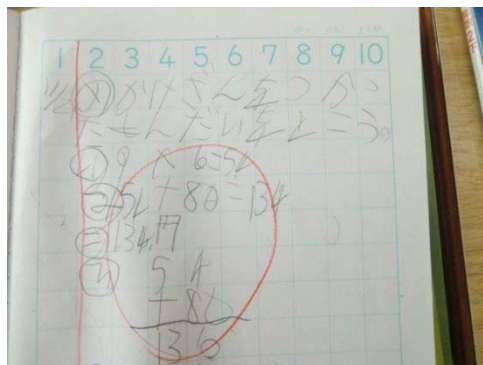
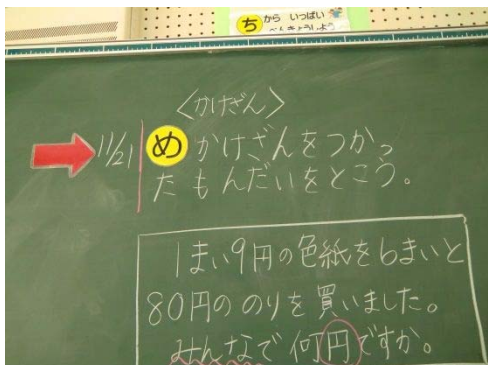
通常の学級での実践

通級による指導を生かして

(学びの連続)

◎ 目印を手がかりに黒板を写す

【矢印マグネット】



取組の工夫

- ・ 全体への指示の後、個別に声をかける。
- ・ 黒板を一行写し終わったら、矢印マグネットを次の行に貼り替える。
- ・ 正しく写せたところに○をつけるなど、その都度評価していく。

◎ 教科書の読む部分を分かりやすくして音読する

【下敷きを使った音読】



取組の工夫

- ・ 下敷きを使いながら、指でも字を追うようにする。
- ・ 学級の他の児童に対しても音読で使用する。

★通級による指導との連携★

- ・ 視覚的に分かりやすくするための手だてを、通級による指導担当教員と相談しながら考え、児童に合うものを見つける。

成果

- 赤矢印を目印に、写す箇所を自分で見つけられるようになってきている。
- 文字を追いながら読もうとする様子が多く見られるようになってきている。